

すこやかな家

設計：建築環境研究所



— 家族構成（入居時）

夫(30歳)：会社員、妻(28歳)：専業主婦
長女(1歳)、長男はNEXT21居住約1年後に誕生

居住中の子育て家族に設計段階から参加してもらい、「子育てしやすい家」としてリフォームをしました。

その結果、子育てしやすい住戸が実現し、住戸の満足度が向上しました。また、子育てに関するニーズを整理することができました。

子育て家族のニーズは、「遊び場の確保」、「安全性の確保」、「家族生活の確保」の三点に整理することができました。

遊び場の確保

- ・子どもが伸び伸びと遊べる広さ。
- ・親が家事をしながら目が届く（遊び場となるリビングが、台所から見渡せる）。
- ・気軽に外遊び（シャボン玉、砂遊び、プール等）ができるベランダ。



安全性の確保

- ・転倒しないフラットな床や、転倒しても安心な和室。
- ・窓からの転落を防止するための転落防止バー。
- ・扉等との衝突の防止するため、住戸内の扉を開き戸ではなく、引き戸（風にあおられたり向こう側から急に開かない）とする。
- ・あらゆる突起物の回避（角のあるものが子どもの顔の高さに来ないように）。

家族生活の確保

- ・おもちゃが散らかっていても、仕事や作業、食事のできる場所がある。
- ・子どもが遊んでいても接客できる場所がある。
- ・来客中に子どもが食事できる場所がある。

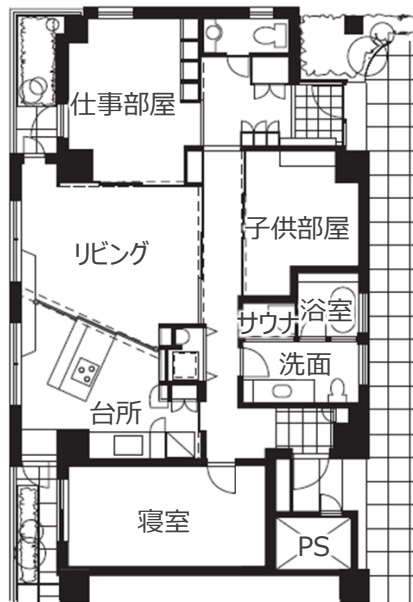


結果—子育てに関する住ニーズ

子育てニーズに応え、「すこやかな家」が竣工しました。

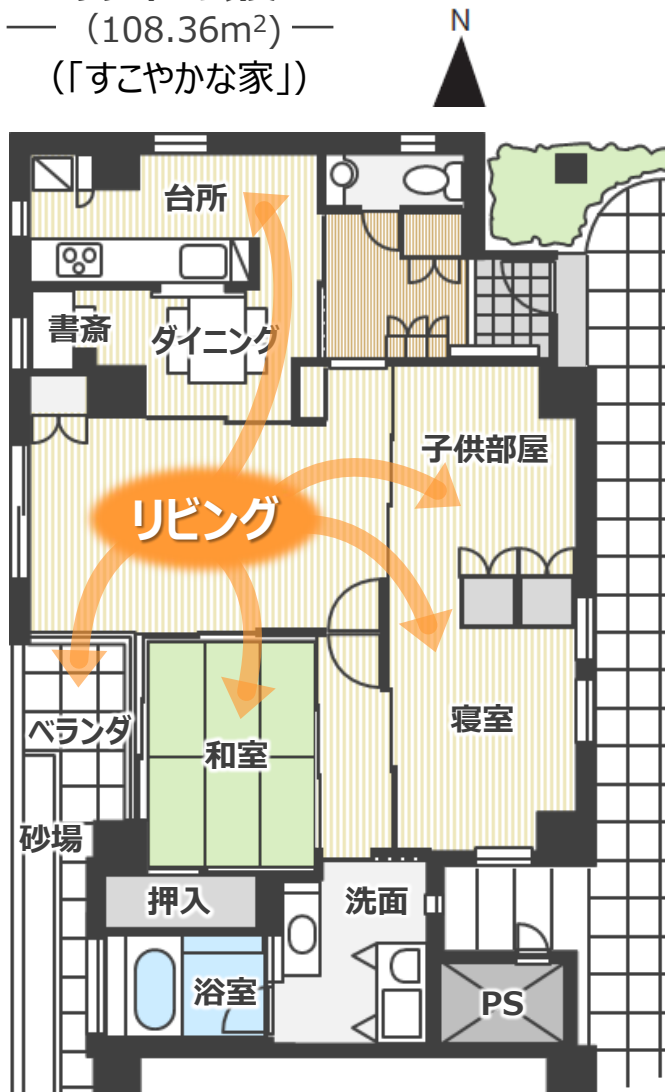
リフォーム前

— (109.80m²) —
（「仕事場のある家」）



リフォーム後

— (108.36m²) —
（「すこやかな家」）



安全性の確保

- ・バリアフリーな床、引き戸、転落防止バー、熱くなるオーブンや炊飯器の配置の工夫、タオル掛けや取手や家具の角部分の高さに配慮し、事故を防止。

遊び場の確保

- ・リビングと台所の連続性、リビングと子ども部屋の連続性、リビングとベランダの連続性を確保。伸び伸びと遊べる広さを確保しつつ、家事をしていても子どもの姿を見守りやすい配置に。
- ・子どもが昼寝でき、転んでも安心な和室を設置。
- ・リビングから出やすく砂遊びやプール遊びも可能なベランダを設置。

家族生活の確保

- ・ダイニングとリビングの間、リビングと子ども部屋の間等に、状況に応じて仕切れる間仕切り扉(引き戸)を設置し、ダイニングやリビングで接客していても、他方や子供部屋に子どもの居場所を確保。引き戸を使って家が散らかっても接客や食事ができる。
- ・書斎コーナーの設置。

居住後の評価

- ・ほとんどのニーズに配慮して設計されたため、居住後は満足度は高く、高評価だった。
- ・特に子どもの姿を見守りやすい点や、和室、状況によって仕切れる引き戸の評価が高かった。
- ・台所の一番奥に冷蔵庫があるため、調理中に家族が出し入れしにくかった。
- ・収納が少なかった。
- ・設計時3歳・1歳だった子供が退去時には6歳・4歳となり、窓に必要な転落防止バーの高さが変わってしまった。（※）

※3歳女兒の平均身長は約92cm、6歳では約113cmです。

